

2022年3月31日

## DIC株式会社

〒103-8233 東京都中央区日本橋 3-7-20  
ディーアイシービル

### ポジティブ・インパクトファイナンスの契約締結について

-当社のSDGs 目標達成への取り組みを金融機関が評価-

D I C株式会社（本社：東京都中央区、社長執行役員：猪野薫）は、株式会社みずほ銀行（頭取：藤原弘治、以下「みずほ銀行」）をアレンジャーとするシンジケーション方式にて、国連環境計画・金融イニシアティブ（以下「UNEP FI」）（※1）が提唱したポジティブ・インパクト金融原則（※2）に即した「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」の融資契約を締結しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクトファイナンス（以下「PIF」）は、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs 達成への貢献度合いを評価指標として活用し、情報開示することが最大の特徴です。

D I Cグループは、「彩りと快適を提供し、人と地球の未来をより良いものに - Color & Comfort -」を経営ビジョンとして掲げ、持続可能な社会を見据えてマーケットとお客様のニーズに対応した製品ソリューションを提供し、広く社会に貢献しています。また「持続可能な事業体質への転換」「プロダクト・スチュワードシップ」「気候変動への対応」「新製品開発力強化・新事業創出」などのマテリアリティへの取り組みを通じてSDGs への貢献を目指しています。

本件締結にあたり、特にSDGs の目標達成にインパクトを与える以下について、定性的、定量的に評価されています。これらの取り組みの進捗・成果は、当社が発行する統合報告書「DICレポート」にて開示します。

インパクト	KPI		目標・方針	SDGs
雇用	総労働災害発生率	国内グループ	2022年度：2.40	
		中国地域	2022年度：1.00	
		AP地域	2022年度：1.10	
		欧米地域	2022年度：8.00	
		DICグローバル	2022年度：4.36	

水 大気 土壌 健康・衛生	グローバル化学物質情報管理プロジェクトの実施 (同社グループ)	2024年度： 同社グループ（米国サンケミカル社を除く）へのシステム展開を完了	
資源効率・ 安全性	高リスク拠点の水リスク管理の実施率	2024年：100%	
気候	CO2 排出量削減率（Scope 1, 2）（基準年：2013年度） (同社グループ)	2030年度：50%削減 2050年度：100%削減 (カーボンネットゼロ)	
廃棄物 資源効率・ 安全性	有効利用率 (国内同社グループ)	2022年度：90%以上	
包括的で健全な経済	ダイバーシティ推進のための取り組み (同社グループ)	2022年度以降： 目標値の設定	
気候 資源効率・ 安全性 廃棄物	サステナブル製品売上高比率 (同社グループ)	2030年：60%	

なお、本件の締結にあたり、株式会社日本格付研究所（JCR、※3）から本件評価にかかるポジティブ・インパクト金融原則への適合性、および環境省の ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースが纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性についての第三者意見書を取得しています。

当社は、本件の契約締結後も、様々なテーマを通じて世界的な取り組みである SDGs 目標の達成に貢献し、D I C ならではの「ユニークで社会から信頼されるグローバル企業」として発展してまいります。

以上

## （※1）国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）

国連環境計画（UNEP）は、1972年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関です。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG（環境・社会・企業統治）への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

## （※2）ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年 1 月に策定した、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた金融の枠組です。銀行

がポジティブ・ネガティブ両面で企業を包括的に評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるポジティブなインパクトの増大、ネガティブなインパクトの低減の努力を導くものです。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、設定した KPI の状況をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

### （※3）株式会社日本格付研究所（JCR）による第三者意見

以下のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/>